

令和元年度 上戸祭小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

＝ 心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた、心豊かな児童の育成 ＝

自分や他人を大切にする子ども

進んで学ぶ子ども

たくましく生きる子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

＝ 合言葉：「学ぼう 遊ぼう 友だちと」 ＝

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して、学校教育目標に掲げた児童の育成を目指す。

そして、児童が、社会の中で自分の能力を発揮し自己実現できるようになるために、「できなかったことができる、分からなかったことが分かる」ように、児童と教師と学校の power up を図る。

《目指す学校像》 楽しく学べる学校 安全で潤いのある学校 地域とともに歩む学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童の power up のために、個に応じた指導を充実させ、保護者と連携して、家庭学習の習慣化を図るとともに、社会性の育成を推進する。
- (2) 児童の power up を支える教師の power up のために、校内研修を計画的・継続的に実施し、授業力の向上を図る。
- (3) 教師の power up を支える学校の power up のために、地域や保護者への情報提供と地域の教育力を生かした取組の推進を図る。

○[星が丘地域学校園教育ビジョン] 未来を見つめ、学び続ける力の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学校教育法施行規則並びに小学校学習指導要領、栃木県教育委員会施策、宇都宮市教育委員会の基本方針や努力点の示すところに従い、本校教育課程を編成する。
- (2) 2019年度の本校の教育目標の実現を目指して、各教科等及び各学年間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるようにするとともに、地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分に考慮し、特色ある教育課程を編成する。
- (3) 各教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- (4) 平成30年度学校評価の反省と改善策、本年度の経営方針を踏まえ、学校教育全般において、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した教育活動の展開を図ることができるように配慮して編成する。
- (5) 「宮っこ未来ビジョン」「うつのみや“いきいき学校”プラン」「宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨を生かすとともに、本市小中一貫教育カリキュラムや星が丘地域学校園における「身に付けたい力」や「重点単元」等に基づき、教育課程の編成と実施に努める。
- (6) 2020年度からの新学習指導要領実施を見据え、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け教育課程の工夫改善を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営
・ 未来を見つめ、夢と希望に満ちた学校づくり
(2) 学習指導
・ 「読んで・わかって・伝える力」の育成
○ 意欲的に学び続ける児童の育成
・ 「かみと学習マニフェスト」による学力向上（めあての提示，学び合う活動の確保，振り返りの時間の設定 等）
(3) 児童生徒指導
・ あいさつと言葉遣いを重点とした，望ましい生活習慣と正しい判断力の育成
○ 互いのよさを認め合い，自己有用感を高め，他人を思いやることのできる児童の育成
(4) 健康（体力・保健・食・安全）
○ 自らのめあてを明確にし，進んで体力向上に取り組む児童の育成
・ 児童の健康な生活習慣の定着
(5) 教職員の働き方改革
・ 「業務見直しチーム」の設置と校内業務の効率化の推進

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
指導する児童の姿	A 1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，授業中，話をしっかりと聞いたり発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①自分の考えや思いを図や言葉で表現したり，話し合ったりするなど，豊かに表現して学び合う児童を育成する。 ②発達の段階に応じて，「発表の仕方」や「話の聞き方」のルールを示し，互いの意見を伝え合い，児童同士で考えを深めていけるような場の設定を行い生活の場と教室をつなぐ活用型の課題を提示して意欲を高め，学びを深める授業を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.2% ・ 児童は，図や言葉で表現することができるようになってきたが，話し合いや学び合いについては，深まるまでにいかなかった。 【次年度の方針】 ・ 相手に分かりやすく伝えたり，自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう，イメージや考えを伝える力の育成に継続して取り組む。
	A 2 児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	① 道徳科の授業の実施し，生命や人権を尊重する心や，人を思いやる心などを涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき，全教育活動を通して人権教育を実施する。 ③ 相手の立場を考えて思いやる心を育めるよう児童会活動や縦割り班活動を計画的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.9% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・ 授業や日常生活の中で生命や人権を尊重する心や，人を思いやる心などを涵養するよう努める。 ・ 相手の立場を考えて思いやる心を育めるよう児童会活動や縦割り班活動を計画的に実施する。

目 指 す 児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 95%以上	①「かみとよい子のやくそく」に基づく全校共通理解のもとで、基本的生活習慣と正しい判断力の育成に努める。 ②きまりやマナーを守って行動していることを児童が相互に認めあう場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 92.9% 保護者の肯定的回答 92.1% 【次年度の方針】 ・きまりやマナーへの規範意識を高めるために、「かみとよい子のやくそく」をさらに具現化し、全職員が共通して児童に指導し、月ごとに行動を振り返らせ規範意識を高めていく。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童・地域住民 85%以上	① 年間を通して地域や地域学校園と連携して児童が中心となって工夫したあいさつ運動を展開するとともに、登下校や上戸タイム、朝の会、帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導を行う。 ② 自ら進んで挨拶することや、時と場に応じた言葉遣いについて地域や家庭での指導を地域住民や保護者に働きかける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.7% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・代表委員会・マナーアップ委員会を中心とした校内でのあいさつ運動の取り組みを強化したり、道徳・学級活動の時間などであいさつの大切さを学ばせたりすることで、児童が自治的・積極的にあいさつ運動を企画していけるよう工夫して取り組んでいく。 ・教師から意図的に児童に対してあいさつを行い、児童の意識づけを図る。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や校内での各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.5% 教職員の肯定的回答 96.4% 【次年度の方針】 ・児童の頑張ったところや粘り強く取り組んでいる所を、担任や児童同士で認め称賛する機会を意図的に多く設ける。 ・授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設け、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。

目 指 す 児 童 の 姿	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 95%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 交通安全指導を定期的に行い自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、指導を工夫する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.4% 保護者の肯定的回答 91.0% ・教職員は目標値を超えたが、保護者においては4%下回った。しかし、9割以上の保護者は肯定的回答をしていることが分かった。 ・健康アップウィークを年2回設けて児童の自己健康管理習慣づけを行った。 ・栄養健康相談において、対象児童に生活習慣改善の知識が身に付いた。 ・避難訓練や交通安全教室、集団下校時の一斉指導等を通して、自分の命は自分で守るという意識を高めることができた。 B 【次年度の方針】 ・本年度同様、嫌いなものでも一口は食べる、配膳された分は残さず食べる等、継続的に給食指導を行っていく。 ・保健だよりに掲載する情報を精選し、健康の保持増進について啓発していく。 ・給食後の歯みがき指導については、教室で使用する掲示物とCDを使って、徹底していく。 ・廊下や階段の歩行については、全職員で徹底して指導する（見つけたら即指導する）。 ・今後も自然災害等の避難訓練において、自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、実施方法の改善を計ったり、道徳教育等での指導を工夫したりする。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 80%以上	①宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して、意図的・計画的に指導する。 ②家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.5% 保護者の肯定的回答 81.0% 【次年度の方針】 ・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して、意図的・計画的に指導する。 ・家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 B

目 指 す 児 童 の 姿	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 80%以上	①外国語活動（英語活動）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②外国語活動（英語活動）に関する校内研修やA L Tと事前に綿密な打合せを重ねるなど、指導力の向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.6% 教職員の肯定的回答 100% ・A L Tや英語ボランティアの方との交流が充実していた。 ・A L Tと事前に綿密な打ち合わせを重ねることで、指導力の向上につながった。 【次年度の方針】 ・英語ボランティアの方々の協力をいただき、さらなるコミュニケーション能力の向上を図る。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 各教科の授業や家庭学習、食育や学校図書館等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 84.3% ・社会科や総合的な学習の時間において、身近な地域や宇都宮市を調べることを通して、良さに気付くことができた。 【次年度の方針】 ・親子ふれあい活動等で伝統工芸等にふれる機会を設けていく。
	A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、授業において積極的にI C T機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.3% 教職員の肯定的回答 96.4% ・各教科や総合的な学習の時間の調べ学習やまとめにコンピューターや情報通信ネットワークを取り入れたことで、活用する力が身に付いてきた。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させたことで、学習効果が上がってきた。 【次年度の方針】 ・各教科や総合的な学習の時間の調べ学習やまとめにI C T機器の活用を図っていく。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の充実に引き続き努めていく。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	① 道徳科の授業において、生命や人権を尊重する心や、他人を思いやる心などを体験活動との関連を図りながら涵養する。 ② 授業や行事等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や思いやりの心を育む。 ③ 「ありがとうの日」に向け、地域に感謝する心や地域の一員として活動しようとする意識を高める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 児童の肯定的回答 90.9% ・共に目標値を超えることができた。 ・地域と共に学ぶ日など、地域の教育力を活かし、高齢者や保護者等とふれ合いながら「地域と共にある自分」の意識は高めることはできた。 ・地域の良さや先輩方の生き方など、生活・総合的な学習の時間等で学ぶことを通して、感謝やいたわりの気持ちを育てることができた。 【次年度の方針】 ・地域の教育力を活用し、生活・総合的な学習の時間を中心に、地域の方や高齢者とふれ合う活動をさらに増やしていく。 ・学習の中に地域のボランティアについて考える時間を道徳や学級活動等に設けたり、地域の行事を把握し背面黒板や呼びかけを通して行事への参加を呼び掛けたりしていく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育や各教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2②再掲】 ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.6% 教職員の肯定的回答 78.6% 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間における環境教育や各教育等を通して、身の回りの環境問題への関心を高め、自分たちができる取り組みを考え、実践していこうとする態度を育てる。

B 1 学校独自アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえ、体育の授業において、柔軟性、ソフトボール投げの能力を高めるための補強運動や、校庭や体育館の固定遊具施設を有効に活用するための補強運動を行う。 ② 水泳検定カード・持久走がんばりカード、縄跳びカードを活用し、児童がめあてをもって運動に取り組めるようにする。 ③ 「元気っ子健康体力チェック」の結果とスポーツ委員会主催のイベントとを関連させながら、友達と豊かに関わりながら進んで運動に取り組めるような機会を、休み時間に設定し、屋外遊びを奨励する。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 95.9% 児童の肯定的回答 88.5% ・共に目標値を超えることができた。 ・水泳検定カード、持久走がんばりカード、なわとびがんばりカード等を使用し、意欲的に運動に取り組むことができた。 ・各クラスにサッカーボール、ドッジボール、ドッジビー、長縄等を配付したので、休み時間に多くの運動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・本年度の取り組みを継続するとともに、運動が苦手な児童も運動したくなるような企画を考案するなど、保健体育委員会主体のイベントをさらに充実させていきたい。 ・引き続き各種検定カード・がんばりカード等を使用し、児童がめあてをもって意欲的に運動に取り組めるよう指導していく。
B 2 児童は、自分のよいところに自信をもち、自己肯定感をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに自信をもって生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	① 児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、Q-U検査の結果の分析活用、携帯電話の所持調査などにより、児童一人一人に目を向けた指導に努める。 ② 一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉かけを行ったりすることに努めるとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行う。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 81.5% 児童の肯定的回答 84.0% ・共に目標値を下回ってしまった。 ・なかよし班活動（縦割り班活動）では、高学年が中心となって遊びを企画することで、リーダーシップを養うことができたり、下学年児童も、高学年に協力することでフォローアップが養われたりすることで、自分らしさを認識しながら楽しく活動することができた。 ・なかよし班と清掃班を同じメンバーにして活動したことで、児童同士の関係が深まった。 【次年度の方針】 ・ロング昼休み等の有効利用を通して、学級や学年内で遊びやイベント等を計画することにより、同学年内においても交友関係が広がるよう、工夫して取り組んでいく。 ・各学年、学級で学級活動等に工夫をしながら、一人一人が活躍できる場を設定していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒ 教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.4% 【次年度の方針】 ・ 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り組織的に支援を行う。 ・ 必要に応じて個別の支援計画を作成し、個に応じた指導に努める。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	① 学級活動、道徳科の授業を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して、児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見・早期解消を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.6% 保護者の肯定的回答 76.7% 【次年度の方針】 ・ いじめアンケートの年4回実施、教育相談の年2回実施、相談ポストの設置、職員会議後の情報交換の実施などにより、いじめの未然防止と早期対応を行う。 ・ いじめゼロ集会を実施したり、いじめゼロ標語を掲示したりし、児童への意識づけを行う。 ・ 道徳及び学級活動の時間などで思いやりの大切さを指導する。 ・ H Pや学年だよりに、道徳や学級活動で行った心を育む活動や学習を記載し、保護者・地域に発信する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う機会をつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査などの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見、不登校の兆候や傾向の児童に関わる校内全体の情報共有を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 【次年度の方針】 ・ 児童の声をより聞き取ることができるよう、相談ポストを設置する。 ・ 教育相談、アンケート、Q-U調査などの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見、不登校の兆候や傾向の児童に関わる校内全体の情報共有を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ③ 外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.4% ・外国人児童について全校で共通理解を図り、互いの文化の違い等認めるような支援を日常的に行ってきた。 【次年度の方針】 ・外国人児童についてのさらなる共通理解を図り、個に応じた支援が図れるよう組織的に取り組んでいく。 ・本年度の実践を継続し、児童が互いの国籍や文化の違い等を認め合い、尊敬し合えるような雰囲気づくりに努めていく。
	A17 学校は、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	① 児童会活動や縦割り班活動、各委員会が企画・運営する集会・交流活動を充実させ、ロング昼休みを有効活用するなど、児童主体の魅力ある活動を推進する。 ② 日常的に児童の見取りを細かに行い、児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めるとともに、職員間で学習情報システムを利用した情報共有を含め、より報交換を密にし、職員全体で児童を称賛できる場を設定する。 ③ 「かみとオリンピック」を通して、学級内で協力する機運を醸成し、互いの学級を認め合う機会として、さらに工夫改善し、学校生活の活性化につなげる。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 92.5% 児童の肯定的回答 91.8% ・共に目標値を上回った。 ・ロング昼休みや朝会時を活用し、児童会や各委員会が企画・運営する集会・異学年交流活動を行ってきた。児童の創意工夫を生かし、児童主体の活動を推進してきた。 ・かみとオリンピック等を通して、学級経営の充実に努めるとともに、縦割り班活動を通して、児童が楽しいと感じる雰囲気づくりに努めた。 ・教育相談や日々の児童の見取りを細かく行い、職員会議等で児童に関する情報交換を行った。児童理解に努め、全職員による指導を行った。 ・学習情報システム等を利用し、教師間で情報を共有するとともに、良いところを認め伸ばす指導に努めた。 ・放課後の時間を活用し同学年で互いの学級の情報を共有した。 【次年度の方針】 ・児童の意欲的な取り組みを認め称賛しながら、児童会、各委員会を中心に児童主体の魅力ある活動の推進を継続していく。 ・かみとオリンピックや縦割り班活動を、さらに工夫改善し、児童一人一人が楽しいと思える学校づくりにつなげていく。 ・学習情報システム等を利用したの情報共有をさらに充実させ、児童のよさを見取り、認め、伸ばす積極的な児童指導を心がける。

目 指 す 学 校 の 姿	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	① 漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合う授業を展開する。さらに、思考力・活用力を育成する朝の学習を充実させる。 ② 教師は授業の中でねらいの提示、話し合う活動や考えを書く活動、振り返りの時間を設定し、学力向上を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 96.2% ・家庭学習の充実やパワーアップタイムを通して、漢字、計算、外国語の基礎基本の定着が図れてきた。 ・授業の中でねらいの掲示、話し合い活動の充実、振り返りの設定などを通し、学力の向上を図ってきた。 【次年度の方針】 ・学年会の時間を確保し、学習の進捗や使用する教材について共通理解を図ったり、教材の準備をしたりすることで、授業力の向上を目指す。 ・朝の学習の時間に実施しているパワーアップタイムをより充実させ、思考力・活用力の育成を図る。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 「チーム上戸」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の企画、運営などに、教職員が相互に助け合いながら協力して取り組むよう努める。 ② 教職員の協働性を高めることを視点とし、組織運営に努め、職員間で気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.4% ・学校行事においては、企画委員会や職員会議を経て、共通理解を図って実施に至っている。 ・職員間が、互いに助け合う雰囲気は醸成されている。 【次年度の方針】 ・本年度同様、振り返りを行って、課題を解決して次年度にいかしていく。 ・相談だけではなく、互いに注意しあえる環境を作っていく。
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	① 教職員の負担軽減に向け学校の組織運営の改善や、各種行事等の精選を行う。 ② 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 82.1% ・パソコン等を活用して、負担の軽減に努めることができています。 ・行事等については、振り返りを行ったり教育課程についてのアンケートを行ったりして、次年度に活かすことができています。 【次年度の方針】 ・専門の方との連携を図り、教育活動の充実を図る。 ・パソコン等を活用することも大切だが、計画的に仕事を進めていくようにする。

目 指 す 学 校 の 姿	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	① 星が丘地域学校園ビジョンに基づき、自己肯定感を高める取組を重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ② あいさつ運動、乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 88.9% ・計画的に行事に取り組んだり、長所を見つけて伝えるようにしたりした。 ・あいさつ運動や乗り入れ授業・進学先中学校訪問など、児童生徒が意欲的に取り組んでいる。 ・事務室会議を通して、互いの学校の情報を交換することができた。 ・複数の目で帳簿等の確認をすることができた。 【次年度の方針】 ・学級経営の充実に努め、帰属意識の高揚を図る。 ・自己肯定感をさらに高めるため、担任や他の教員、友達からの児童の長所を、本人に返していくよう努める。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	① 地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材やボランティアの協力を得て、豊かな体験活動や居場所づくりを展開する。 ・地域・家庭・学校が連携して、「上戸ありがとうの日」を実施し、ご協力いただいた方々への感謝の気持ちを表す場を設け、地域を愛する気持ちを育てる。また、総合的な時間を中心に地域と連携した教育活動を積極的に取り入れる。 ・宮っ子ステーション「かみタマ」「上戸クラブ」との連携を図り、児童の放課後の多様な体験活動、居場所づくりに努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 88% 地域住民の肯定的回答 94.1% ・全市一斉土曜授業を地域と共に学ぶ日として、地域と連携し、教育活動を行うことができた。 ・「かみタマ」や「上戸クラブ」の職員の皆様のご努力により、放課後の様々な体験活動や居場所づくりが充実され、児童が安心して生活することができている。 【次年度の方針】 ・次年度も全市一斉土曜授業を地域と共に学ぶ日として、地域と連携し、教育活動を行っていく。 ・次年度も学校は、各ボランティアと学校をつなぐ教員を決めて、窓口となる教員を中心に地域の方に協力していただき教育活動を推進する。

目 指 す 学 校 の 姿	A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	① 地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材やボランティアの協力を得て、豊かな体験活動や居場所づくりを展開する。 ・地域・家庭・学校が連携して、「上戸ありがとうの日」を実施しご協力いただいた方々への感謝の気持ちを表す場を設け、地域を愛する気持ちを育てる。また、総合的な時間を中心に地域と連携した教育活動を積極的に取り入れる。 ・宮っ子ステーション「かみタマ」「上戸クラブ」との連携を図り、児童の放課後の多様な体験活動、居場所づくりに努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 88.1% 地域住民の肯定的回答 94.1% ・様々な体験活動により、豊かな心を持つ児童の育成の充実が図られている。 【次年度の方針】 ・生活科や総合的な学習の時間を活用し、地域・家庭・学校が連携し、地域を愛する心や豊かな心の育成に努める。
	A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%・保護者 80% 地域住民 80%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 92.9% 保護者の肯定的回答 90.9% 地域住民の肯定的回答 100% ・毎月、安全点検を実施し、修繕箇所については、労務主事や業者の力を借りることで、児童が安全に生活できるよう努めた。 ・様々な場面を想定して、避難訓練を実施することで、自分で判断して行動することができるようになってきている。 ・事前にプリントを配付したり、校内放送で呼びかけたりすることで周知を図った。 【次年度の方針】 ・様々な場面の避難訓練において、実際の場面を想定して訓練ができるよう改善を図る。

	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に I C T 機器を活用する。 【A 1 0 ①再掲】 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A 1 0 ②再掲】 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 【A 1 0 ③再掲】	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.3% 教職員の肯定的回答 96.4% ・各教科や総合的な学習の時間の調べ学習やまとめにコンピューターや情報通信ネットワークを取り入れたことで、活用する力が身に付いてきた。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させたことで、学習効果が上がってきた。 【次年度の方針】 ・各教科や総合的な学習の時間の調べ学習やまとめに I C T 機器の活用を図っていく。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の充実に引き続き努めていく。
本校の特色・課題等	B 3 教職員は、児童のよさや努力を認め励ます指導をおこなっている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「先生は、自分のよいところを見つけて、ほめてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます機会を設け、指導に努める。 ② 児童のよさや児童が努力したことを保護者に積極的に伝える。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 89.9% 児童の肯定的回答 91.63% ・計画的に行事に取り組んだり、長所を見つけて伝えるようにしたりした。 ・学習情報システムや放課後の学年会等を活用して児童の良さや改善すべきことを話し合うことができた。 【次年度の方針】 ・スタンダードダイアリを有効に活用し、児童の良さが保護者に伝わるように努める。
	B 4 学校は家庭と協力して家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は毎日家庭学習をしている」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	①「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。また、家庭学習の重要性や内容、方法について、保護者会・個人懇談等を利用して保護者に啓発していく。 ②児童の提出した家庭学習の課題やノートによく目を通し、一人一人の学習状況や内容に応じて個別指導を行い、認め励ますことで意欲づけを図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.4% 児童の肯定的回答 84.7% 保護者の肯定的回答 88.2% ・家庭学習の習慣化はされているが、家庭学習の捉え方があいまいになってきている。 【次年度の方針】 ・家庭学習の捉え方について保護者及び児童に再度周知徹底し、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。 ・具体的な家庭学習の取り組み方、進め方について、より効果的かつ効率的な方法についての再検討を図っていく。

B 5 学校は家庭と協力して読書活動を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は家庭と連携して読書活動を行っている」における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	① 朝の図書の貸出、読み聞かせボランティアの活用、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進する。 ② 家庭の理解と協力を呼びかけながら、家庭読書の日等の実践を通して、家庭読書の充実を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 92.9% 保護者の肯定的回答 83.6% ・読み聞かせボランティアの方にお世話になり、読書活動の充実を図ることができた。 ・年2回の家庭読書の日を設けて、保護者と一緒に読書をする機会を設けた。 【次年度の方針】 ・家庭読書の実施に関して、引き続き、保護者に文書で通知するとともに、図書だよりや委員会活動を通して、意識の高揚を図るようにする。
---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・学校評価全体を見ると、本校の教育活動を地域や保護者に積極的に情報発信していく力が足りない面も見られる。地域に支援してもらっただけでなく、学校や子供たちが自ら地域に関わっていく活動も検討していく必要がある。

《学校運営面》

・学校行事、授業参観、発表集会等により学校公開が当初の予定通りに実施された。また、学校だよりをはじめ各種たよりの発行、ホームページなどの活用で、教育活動や児童の様子を公開し情報を発信してきたが、学年によって情報量に差はみられた。さらに閲覧数が増え、学校の取組に対する理解度が増えるよう創意工夫することが必要と考える。

・PTA、ふれあい地域協議会、各種ボランティアの方々の温かい協力で、充実した教育活動を行うことができています。

・2020年度からの新学習指導要領の完全実施に加え、「プログラミング教育に向けた職員研修」や「うつのみや学に向けた地域教材の発掘」など、令和2年度の教育課程の実施に向けた準備を積極的に進めていく必要がある。

・若手教員が多数を占める本校の現状を鑑み、ミドルリーダーである中堅教員を中心に校内研修を進め、授業力向上や学級経営力の向上を進めていく必要がある。

《児童指導面》

・問題行動やいじめ、不登校に関する予兆に早期対応できるよう、定例実施の「児童指導上の情報交換」や、随時開催の「ケース会議」に全職員で共通理解のもと取り組んできた。今後も、児童の心に寄り添える体制の構築に努めていく。

・校内でのあいさつは比較的よくできるが、「行動規範や公衆道徳としてのルールに関する意識が低い」と捉える保護者も少なくない。どこにいても節度ある行動がとれる児童の育成を目指し、家庭・地域と連携して取り組んでいく。

・異年齢集団による清掃活動や縦割り班活動を通じて、上級生や目上の人に対する敬意や思いやりの心を育てていく。

《体力・健康面》

○児童の視力低下は、星が丘地域学校園共通の健康課題である。目の健康に関する健康指導を学校全体で進めていく。

○反復横跳び・立ち幅跳び・50m走・20mシャトルラン・ソフトボール投げの5種目に課題があり、県平均を下回っている。日常的な運動経験の不足が影響しているとも考えられる。準備運動の中に「課題となる動き」を取り入れるなど、星が丘地域学校園と連携し、発達の段階に応じたよりよい方法を実践・検討していく。

・従来の保健体育委員会では「歯磨き指導・衛生検査などの保健活動」と「スポーツイベントや体育用品の維持管理などの体育的活動」を掛け持ちできず、十分に機能が果たせない状況だった。次年度は「保健委員会」「体育委員会」に分離し、より機能的に活動できるよう、改善を図っていく。

○令和2年度10月より宇都宮市で始まる統一献立に向けて、栄養バランスや食物アレルギー対策に着目した計画を地域学校園で進めていく。安全・安心・おいしい、さらに潤いのある給食は引き続き継続していく。

《学習指導面》

○「かみとの家庭学習」として統一形式に揃え、全学級で実施してきた。宿題も家庭学習に含まれる取組であり、個々の事情に合わせて様々な取組ができることを呼びかけてきたが、マンネリ化している部分もあり、今後も課題となっている。今後、家庭学習の取り組み例などを紹介することで、保護者や児童へのさらなる周知を図る。

・コミュニケーション能力の育成のため、ペア学習や少人数での話し合い活動を意図的に取り入れる。学級ごとに話し合いの形態による効果を検証し、それぞれの学級集団の実態に即した形に随時改善していく。

○児童の学びに向かう意欲を高めるため、「課題の明確化」と「学習の振り返り」に着目した授業展開に努める。

7 学校関係者評価

《学校運営面》

- ・学校と自治会が連携し、各自治会で企画している地域の行事などを学校でも紹介してもらい、地域活動に子どもたちがより参加しやすい状況を作っていけるとよい。
- ・子供たちが自ら地域に積極的に関われるとすれば、総合的な学習において夏季休業中に各自の課題をもって活動するなどの取組も一つの方法になる。ただし、そのような活動の実現には家族の協力も大切。防災訓練や地域のごみ拾い活動、盆踊りなど子供たちが興味関心を持ち、楽しく関われるものであれば家庭の協力も得られるのではないか。
- ・教員の人事異動のサイクルが早い。行政の裁量なので仕方がない面もあるだろうが、長く学校に関わる教員がもっといてほしい。卒業生も小学校時代にお世話になった先生がいないと母校に寄りにくい。
- ・ホームページの形式は、もっと見やすいものに変えたほうがよい。

《児童指導面》

- ・子供はあいさつしたいけれど恥ずかしくてできない子もいるのでは？あいさつができないのは子どもだけのせいではなく、大人にも原因があるかも知れない。地域の大人が子供たちに笑顔で接して、話しやすい雰囲気を作ってあげることも大切。

《体力・健康面》

- ・最近の公園には「ここでサッカーや野球はしないでください」などの表示がある場所も多く、子どもたちが体を動かし運動用具に慣れ親しむ機会は、学校か習い事でしか存在しにくい。ボール投げなどは準備運動の中にキャッチボールの時間を毎回設けるなど、工夫があるとよいかも知れない。

《学習指導面》

- ・来年度から「うつのみや学」などが入ってくるとのことだが、成人式の式典で「宇都宮市の歌」斉唱となっても、歌えない若者が多い。小学生のうちから授業で歌わせたり、朝の活動の時間にBGMのように毎日流し、知らず知らずに覚えるなど、学校としても工夫して取り入れてほしい。
- ・学習の振り返りは大切だと思う。先生方にはご苦勞をおかけしますが「この前は何を勉強したか覚えていますか」といった確認から次の授業が始められるように、子どもたちに学習の振り返りや、今どんなことを身に付けようとしているのかの意識づけを重視した形で授業を進めていただけるとありがたい。理科や社会は宿題に出る機会が少ないので、特に学習の振り返りを願いたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校教育活動への理解が深まるよう、家庭地域により積極的に情報を発信することに努め実践していく。
- ・社会に開かれた教育課程の実現を目指して、土曜授業日における授業公開や、地域・保護者の方々の教育力を生かした授業を展開する。ボランティア活動運営調整会議の場を有効に活用し、より実効性の高い形になるよう力を入れていく。
- ・いじめや不登校児童をつくらぬよう、全教職員一丸となって、子どもの心に寄り添う体制づくりに努める。従来の教育相談週間はもちろんのこと、通年で相談ポストを活用し、相談しやすい教職員を指名して相談できるシステムを継続していく。子どもの悩みを早期発見し、早期対応ができるよう、引き続き取り組んでいく。いじめ未然防止として道徳、学級活動などの授業で人権教育・道徳教育の取り扱いを継続していく。教職員だけでなく、児童会主催の「いじめゼロ」集会を公開することなどにより保護者や地域にも発信していく。また、見守りボランティアの皆様や地域の皆様、保護者からもいじめに関する情報をいただけるよう啓発活動を行う。子供たちのよいところをとらえたり、お互いのよさを認めたり、自己肯定感を高めていく。
- ・児童が、個人の能力に応じて進んで運動できるよう様々な機会の工夫・充実を図る。運動能力向上に向けて、教科体育時の準備運動の中に毎回ボール投げを取り入れるなどの工夫をし、日常的な運動経験の機会を位置づける。現在活動している保健体育委員会は来年度体育委員会と保健委員会に分離独立させ、体育分野と保健衛生分野の活動が単独でしやすい状況に改善することで、児童主体の活動が活性化されるように改善を図る。
- ・うつのみや学のスタート年度として、まず「宇都宮の歌」を学校生活の中で唱歌したり、身近に耳にする機会を意図的に取り入れる。学力向上においては、各教科の基礎基本を着実に身に付けさせるための取組と結果が児童にも保護者にも見えるよう、国語・算数の分野を中心に進めていく。（漢字の習熟率向上、四則計算力の向上 など）
- ・保護者の参観率の高い発表集会など、児童一人一人の学習状況や学習の成果を紹介できる機会を全校や各学年で意図的に企画していく。
- ・授業の冒頭には前時の振り返り、授業の終末には本時の学習内容の振り返りを全学級で徹底し、児童一人一人が狙いを明確に認識して授業に取り組める体制を築いていく。ペア学習やグループ学習などを取り入れながら、書く、聞く、話す活動を充実させ、考える習慣をつけさせる。家庭学習の習慣化を、自主学習ノートの提出とそれに対する日々の担任のアドバイスや励ましのコメントを継続することにより図る。

